地方独立行政法人市立大津市民病院
令和元年度第２四半期報告書

令和元年１０月２９日報告　地方独立行政法人市立大津市民病院

令和元年１１月１２日確認　大　津　市

目　　次

Ⅰ　全体的な分析・確認結果（法人の自己分析と市の確認結果）

１　年度計画に掲げる目標指標に関する目標を達成するための取組

２　事業年度における四半期ごとの財務情報等に関する目標を達成するための取組

Ⅱ　項目別での分析・確認結果（法人の自己分析と市の確認結果）

１　年度計画に掲げる目標指標に関する自己分析・確認結果まとめ

２　事業年度における四半期ごとの財務情報等に関する自己分析・確認結果まとめ

（１）年度計画で掲げる収支計画のうち次に掲げる区分の金額と進捗状況

（２）事業年度における四半期ごとの財務情報のうち資金繰り等に関すること

（３）事業年度における四半期ごとのその他の情報のうち職員体制等に関すること

（４）その他、法人経営において特筆すべきこと

＜別紙＞

１　令和元年度の第２四半期業務実績に関する小項目業績評価における指標一覧（７－９月期）

Ⅰ　全体的な分析・確認結果（法人の自己分析と市の確認結果）

１　年度計画に掲げる目標指標に関する目標を達成するための取組

〈法人の自己分析〉	〈市の確認結果〉
第２四半期は、６月のマスコミ報道により入院患者数・救急等の診療報酬にかかる主要な項目へ悪い影響を及ぼし、７月の業績が大きく落ち込んだ。救急体制について、これまでと変わらない体制を維持していることを、チラシを作成して市役所・支所に設置し、地域の医療機関・保険薬局や、大津市内の南部を中心とした新聞折り込みなどを通じて配布を行ったり、診療部長による地域医療機関訪問により直接アピールを行った。このことにより、９月は若干回復傾向にあるが、それでも昨年・一昨年同期と比べると、依然低調な状況が続いている。９月に救急診療科医師を１名確保し診療体制の充実を図っており、今後も引き続き救急は万全の体制をもって対応しているという実績を重ねていき、さらにこれまでと変わらない救急体制をアピールし続けていく。 年度計画達成に向け、各診療科向けに適正なベッドコントロールの指示を行い、また、新規患者の獲得、収入増加・経費削減、病院のイメージ向上のため、職員全員参加の視点から初めて職員による病院経営に関するアイデアを募り、実際の施策として１２月から第２・４土曜に地域医療機関から依頼されたＭＲＩ検査を実施することを決定した。さらに、６月から院長中心に行った診療科・各部門別のヒアリングにより作成した各診療科のアクションプランを含めた経営改善計画を作成した。今後はこれらに基づき、年度計画・中期計画達成に向けて各部署が取り組みを進め、全員参加の経営を実現していく。	■第２四半期の総評として年度計画の達成状況は、やや遅れていると判断する。年度計画に掲げる多くの指標において第２四半期の目標値を下回っていることがその主たる理由である。 ■風評被害の払拭のための取組や、経営改善の効果を高めるための取組など、第２四半期でやるべきことは実施できているので、下半期で患者が戻るための取組を推進すること。 ■トップレベル（経営全体会議）及びミドルレベル（所属間連携）での相互連携による業務改善にしっかりと取り組むこと。 ■診療科別の数値目標を設定し、下半期に取り組める業績改善策を診療部長と共有して進めること。

２　事業年度における四半期ごとの財務情報等に関する目標を達成するための取組

〈法人の自己分析〉	〈市の確認結果〉
財務情報の目標達成に向けて、第２四半期は前年同期比で、産婦人科分娩休止等により医業収益は２１９百万円減少したが、材料費、経費、減価償却費の減少により、医業費用（退職給付費用含む）も１４５百万円減少し、医業損益は７４百万円下振れしている状況である。計画比でも厳しい状況で、医業収益、医業費用ともに目標未達であった。産婦人科分娩休止、診療科体制の変更等により入院収益が低調であったことが主な要因である。 資金面では、期首短期借入金１，９１１百万円から、第２四半期末短期借入金１，９５４百万円と増加し、短期借入金余力４６百万円と非常に厳しい資金繰り状況であった。今後は、１０月に大津市から追加の運営費負担金１，２７２百万円が入金され、一時的に短期借入金は減少する見込みであるが、１２月賞与（５８０百万円）、３月移行前地方債の償還（５３５百万円）で追加運営費負担金の効果はなくなり、資金繰りは、年度末短期借入残高１，９６７百万円に達する見込みである。 今後、経営改善計画に挙げた収益改善策のうち早期に取り組めるものから実施することで収益向上、資金繰りの改善に努めていく。	■財務情報等に関する目標達成状況は、やや遅れていると判断する。入院収益の減少が、医業費用の削減効果を上回っている。収益自体の落ち込みが財務情報に関する指標に大きく影響している。 ■財務に関して法人が取り組むべき方向性は収支バランスをとることである。収益自体の回復がすぐに見込めない中、いかにして費用面を抑制して収支バランスをとるかが重要であり、下半期は更なる経費削減を実施すること。

Ⅱ　項目別での分析・確認結果（法人の自己分析と市の確認結果）

１　年度計画に掲げる目標指標に関する自己分析・確認結果まとめ（目標指標の実績及び達成状況は次ページ及び別紙の「令和元年度の第２四半期業務実績に関する小項目評価における指標一覧」を参照）

〈法人の自己分析〉	〈市の確認結果〉
第２四半期は、目標達成した指標が１１項目で、未達成の指標は１５項目であった。特に４事業に対する医療の確保については、救急診療体制に対する報道後に大きく落ち込み、各方面に向けて情報発信を続けてきたが、目標値に到達していない厳しい状況が続いている。しかし、６月以降の救急ストップは０時間であり２４時間３６５日対応可能な救急体制で、救急患者の受入治療に当たっている。 上半期では、目標達成した指標が１１項目で、未達成の指標は２１項目であった。５疾病に対する医療の提供では放射線治療件数を含む３項目で目標達成ができたが、第２四半期の４事業に対する医療の確保の指標はいずれも達成できなかった。また、分娩休止に伴う産婦人科の収入減に対して、昨年度から検討していた効率的な病棟運営のために病棟の一部再編を行ったが、他の診療科の取り組みがあっても産婦人科の分を補いきれていないのが現状である。 年度実績見込みとしては、上半期の業績の落ち込みから目標達成が非常に難しい指標もあるが、年度目標の達成は４事業に対する医療の確保の指標達成に向けた取り組みとして、大津市中部・南部・東部地域約７万世帯に向けた救急体制のＰＲチラシを配布し、市民に向けた情報発信を行うとともに、地域医療機関や救急隊に対して、働きかけをを行ってきた。今後も、さらに広報活動を強化していくことにより当院の救急体制に対する信頼を取り戻し、指標の達成や収益の向上につなげていく。また、初めて実施した職員提案においては１４０以上の提案が出されるなど、職員全員が一体となって経営改善に取り組む機運が高まっており、作成した経営改善計画のアクションプランの実行に組織的に取り組んでいく。	■目標を達成した指標のうち、病床稼働率やＩＣＵ稼働率は、前年同期及び前期と比較して悪化してきており、ベッドコントロールの見直しなど、再確認して少しでも向上できるよう努力すること。 ■４事業に対する医療の確保に関する項目のうち、救急に関する指標は厳しい状況にあるが、止まらない救急体制をしっかりと堅持し、市民の信頼を損なうことのないよう備えること。 ■入院患者数、新入院患者数の減少に関して原因を分析し、対計画及び対前年同期比での悪化に対応すること。

指標No.	大項目	分析・検証する小項目及び目標指標	H28実績	H29実績	H30実績	H30（4-9月）実績	R1目標	R1見込（4-9月）［A］	R1実績（4-9月）［B］	計画増減［B-A］		達成状況［B/A］	達成☆	備　考 「※」は、見込みは目標の2/4（小数点以下があるときは切捨て）
	第２　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置													
		１　市民病院としての役割												
		⑴　５疾病に対する医療の提供												
1		がん手術件数	605件	603件	629件	298件	640件	320件	281件	△39件		87.8%	↑	※
2		化学療法件数	1,861件	2,118件	2,769件	1,374件	1,870件	935件	1,049件	114件		112.2%	↑☆	※
3		放射線治療件数	99件	110件	101件	47件	115件	57件	60件	3件		105.3%	↑☆	※
4		脳外科手術件数	289件	251件	275件	127件	325件	162件	162件	0件		100.0%	↑☆	※
5		ＰＣＩ実施件数	177件	184件	151件	78件	206件	103件	73件	△30件		70.9%	↑	※
		⑵　４事業に対する医療の確保												
6		救急搬送受入件数	4,176件	4,097件	3,915件	2,011件	4,090件	2,045件	1,744件	△301件		85.3%	↑	※
7		救急搬送入院患者数	1,524人	1,457件	1,413人	712人	1,444人	722人	650人	△72人		90.0%	↑	※
8		救急ストップ時間	29時間	317時間	436時間	193時間	0時間	0時間	12時間	12時間		－	↓	
9		救急搬送比率	26.7%	25.2%	24.3%	25.3%	27.5%	27.5%	21.2%	△6.3Ｐ		77.1%	↑	
10		救急入院患者数	3,114人	2,886人	2,778人	1,414人	3,050人	1,525人	1,274人	△251人		83.5%	↑	※
11		小児科入院患者数	3,693人	3,216人	2,748人	1,501人	2,645人	1,322人	1,298人	△24人		98.2%	↑	※
12		小児科救急受入件数	2,072件	2,304件	2,048件	876件	2,375件	1,187件	944件	△243件		79.5%	↑	※
		⑶　感染症への対応												
		⑷　予防医療の提供												
13		人間ドック受診者数	3,215人	3,452人	3,442人	1,574人	3,246人	1,461人	1,657人	196人		113.4%	↑☆	※
		２　地域の病院、診療所等との機能分化及び連携強化												
		⑴　地域医療支援病院としての役割												
14		紹介率	56.6%	54.0%	65.2%	63.3%	57.0%	57.0%	69.0%	12.0Ｐ		121.1%	↑☆	
15		逆紹介率	83.9%	86.2%	94.4%	92.0%	78.0%	78.0%	101.8%	23.8Ｐ		130.5%	↑☆	
16		地域医療機関訪問回数	318回	316回	329回	259回	250回	125回	128回	3回		102.4%	↑☆	※
		⑵　地域での病院機能とその役割				定性								
		⑶　在宅医療・介護との連携強化				定性								
		⑷　関係機関との連携強化				定性								
		３　市民・患者への医療サービス												
		⑴　市民・患者の求める医療サービスの提供				定性								
		⑵　職員の接遇の質の向上				定性								
		４　医療の質の向上												
		⑴　医療の安全の徹底				定性								
		⑵　診療データ分析による医療の質と効率性の標準化				定性								
		⑶　セカンドオピニオンの推進				定性								
		⑷　市民への医療の質に関する情報発信				定性								

	第３　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置											
	１　経営の効率化											
	２　管理体制の強化											
	⑴　経営体制の強化				定性							
	⑵　内部統制の強化				定性							
	⑶　コンプライアンスの徹底				定性							
	３　優れた人材の確保と意識改革											
	⑴　法人職員の確保				定性							
	⑵　職員の意識改革とモチベーションの向上				定性							
	⑶　研修体制の強化				定性							
	第４　財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置											
	１　単年度資金収支ゼロ以上並びに経常収支比率及び医業収支比率１００パーセント以上を達成するために講じる施策											
17	医業収支比率　※1	87.4%	93.6%	99.9%	102.2%	105.0%	105.0%	96.5%	△8.5Ｐ		91.9%	↑	半期ごと確認指標
18	経常収支比率　※2	91.2%	90.0%	102.7%	99.4%	112.0%	112.0%	105.1%	△6.9Ｐ		93.8%	↑	半期ごと確認指標
	⑴　収入及び収益の向上策											
19	入院診療単価	55,980 円	57,954 円	59,053 円	57,877 円	58,500 円	58,500 円	58,233 円	△267 円		99.5%	↑	
20	外来診療単価	13,581 円	13,997 円	15,294 円	15,036 円	12,000 円	12,000 円	15,045 円	3,045 円		125.4%	↑☆	
21	手術件数	4,027 件	3,888 件	3,635 件	1,750 件	4,450 件	2,225 件	1,967 件	△258 件		88.4%	↑	※
22	病床稼働率	83.7%	88.4%	87.9%	88.7%	82.0%	82.0%	84.2%	2.2Ｐ		102.7%	↑☆	
23	入院患者数	132,305 人	126,868 人	126,084 人	63,934 人	133,590 人	66,795 人	60,000 人	△6.795 人		89.8%	↑	※
24	外来患者数	220,439 人	218,401 人	210,287 人	104,162 人	228,420 人	114,210 人	101,819 人	△12,391 人		89.2%	↑	※
25	平均在院日数	12.3 日	12.6 日	12.6 日	12.6 日	11.2 日	11.2 日	12.7 日	1.5 日		113.4%	↓	
26	ＤＰＣⅡ期間以内患者割合	64.0%	64.5%	58.7%	57.4%	69.0%	69.0%	59.1%	△9.9P		85.7%	↑	
27	新入院患者数	10,414 人	9,879 人	9,293 人	4,701 人	10,780 人	5,390 人	4,365 人	△1,025 人		81.0%	↑	※
28	ＩＣＵ稼働率	107.5%	114.6%	114.4%	120.1%	100.0%	100.0%	104.7%	4.7Ｐ		104.7%	↑☆	
	⑵　支出及び費用の削減策											
29	人件費比率（職員給与費比率）※3	61.5%	57.7%	54.7%	53.3%	56.0%	56.0%	57.8%	1.8Ｐ		103.6%	↓	半期ごと確認指標
30	材料費比率　※4	21.9%	22.9%	23.0%	23.3%	20.0%	20.0%	23.1%	3.1Ｐ		115.5%	↓	半期ごと確認指標
31	後発医薬品指数	90.0%	89.3%	91.6%	92.1%	80.0%	80.0%	92.9%	12.9Ｐ		116.1%	↑☆	半期ごと確認指標
32	委託費比率　※5	11.0%	11.0%	11.7%	11.9%	11.0%	11.0%	12.1%	1.1Ｐ		110.0%	↓	半期ごと確認指標
	２　運営費負担金				定性							
	３　計画期間内の収支見通し				定性							
	第５　その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置											
	⑴　大津市民病院付属看護専門学校の在り方について				定性								平成３０年度以降新規学生募集停止
	⑵　介護老人保健施設ケアセンターおおつの在り方について				定性								平成２９年度末事業廃止

※1　算出根拠　医業収益／医業費用
※2　算出根拠（営業収益+営業外収益）／（営業費用+営業外費用）
※3　算出根拠　医業費用の給与費（退職給付費用除く）／医業収益
※4　算出根拠　材料費／医業収益
※5　算出根拠　医業費用及び一般管理費の委託費／医業収益

２　事業年度における四半期ごとの財務情報等に関する自己分析・確認結果まとめ

（１）年度計画で掲げる収支計画のうち次に掲げる区分の金額と進捗状況（金額は百万円、達成状況は「○」が達成、「×」が未達成。「↑」又は「↓」は達成の方向）

No.	主な項目	H30年度 実績※1	R1年度 計画目標 （A）	第2四半期 (7-9月期) 目標（B）	第2四半期 (7-9月期) 実績（C）	達成状況 （C/B） 損益C-B	H30年度 (4-9月期) 実績	2/4四半期 (4-9月期) 目標（D）	2/4四半期 (4-9月期) 実績（E）	達成状況 （E/D） 損益E-D	年度実績 見込み ［F］	達成見込み 状況 ［F/A］	備考
1	医業収益のうち入院収益	7,446	7,815	1,918	1,786	↑× 93.1%	3,664	3,833	3,475	↑× 90.7%	－	↑ 000.0%	
2	医業収益のうち外来収益	3,216	2,741	658	766	↑○ 116.4%	1,570	1,321	1,540	↑○ 116.6%	－	↑ 000.0%	
3	医業費用のうち給与費	6,067	6,110	1,527	1,484	↓○ 97.2%	3,078	3,055	3,011	↓○ 98.6%	－	↓ 000.0%	
4	医業費用のうち材料費	2,549	2,108	527	586	↓× 111.2%	1,266	1,054	1,202	↓× 114.0%	－	↓ 000.0%	
5	医業費用のうち経費（光熱水費）	233	254	63	65	↓× 103.2%	117	127	120	↓○ 94.5%	－	↓ 000.0%	
6	医業費用のうち経費（修繕費）	36	38	9	10	↓× 111.1%	19	19	14	↓○ 73.7%	－	↓ 000.0%	
7	医業費用のうち経費（委託料）	817	835	235	227	↓○ 96.6%	413	418	387	↓○ 92.6%	－	↓ 000.0%	
8	医業費用のうち減価償却費	981	714	178	191	↓× 107.3%	450	357	382	↓× 107.0%	－	↓ 000.0%	
9	医業収益※2	10,662	10,556	2,576	2,552	↑× 99.1%	5,234	5,154	5,015	↑× 97.3%	－	↑ 000.0%	
10	医業費用※3	9,983	9,494	2,403	2,437	↓× 101.4%	5,034	4,750	4,874	↓× 102.6%	－	↓ 000.0%	
11	医業損益（No.9-No.10）	679	1,062	173	115	↑× △58	200	404	141	↑× △263	－	↑ 000.0%	
12	営業損益（負担金含む）	264	1,506	283	288	↑○ 5	42	625	237	↑× △388	－	↑ 000.0%	
13	営業損益（負担金除く）	△728	6	△91	△185	↑× △94	△454	△125	△434	↑× △309	－	↑ 000.0%	
14	経常損益（負担金含む）	540	1,791	354	633	↑○ 279	183	767	477	↑× △290	－	↑ 000.0%	
15	経常損益（負担金除く）	△1,187	△487	△215	△278	↑× △63	△681	△373	△649	↑× △276	－	↑ 000.0%	

〈法人の自己分析〉

第２四半期は、外来収益が目標値を達成したが、入院収益が目標値を下回り、医業収益の目標達成には至らなかった。医業費用も給与費で目標達成したものの、材料費、経費で目標値を上回り、医業費用の目標達成には至らず、医業損益も黒字を確保したが、目標値には至らなかった。入院収益の目標値との乖離の大きな要因は、前年度比で約９０百万円収益減している産婦人科の分娩休止である。

2/4四半期でも目標値比では上記で述べた第２四半期と同じ傾向となっており、目標値には達していない状況である。

前年同期（退職給付費用含む）と比較すると、医業損益では１４２百万円悪化、営業損益（負担金除く）で６３百万円悪化、経常損益（負担金除く）で５１百万円悪化している。収益は、入院収益△１８９百万円、外来収益△３０百万円と産婦人科分娩休止（　入院：△１５５百万円 外来：２１百万円）等により減少したが、費用も、材料費△６４百万円、経費△２９百万円、減価償却費△６８百万円と収益や病床稼動と連動する材料費・経費の減少、新規投資を抑制していることによる減価償却費の減少等により減少している。また、給与費も退職給付費用除くと△６７百万円と稼動病床数に見合った職員数の適正化（年度当初比△１６人、前年度比△３２人）により減少しており、収益の落ち込みほど損益は悪化していない状況である。

今後は、経営改善計画に挙げた収益改善策のうち早期に取り組めるものから実施することで収益向上に努めていく。

〈市の確認結果〉

■上半期で費用の削減効果（給与費、光熱水費、修繕費、委託料が目標達成）が表れた点は評価する。その一方で医業収益の減少が大きく、結果として、損益に関する項目が軒並み目標値を下回ってしまったのが上半期の総括的な評価といえる。

■これまでの業務改善努力に加え、更なる取組の強化が求められる。理由は、収益の大幅な改善が今後期待できると現時点では判断できず、法人として行うべきは費用の削減にあると考えるためである。収支バランスをとるため、収益に見合った費用を見据えた上で、費用の数値化、見える化を行い、更なる削減に取り組むこと。

※1 病院事業のみ

※2 医業収益の内訳（入院収益+外来収益）

※3 医業費用の内訳（給与費+材料費+経費）

（２）事業年度における四半期ごとの財務情報のうち資金繰り等に関すること

〈資金繰りの状況等〉	〈法人の自己分析〉	〈市の確認結果〉
令和元年度第２四半期末での現預金保有状況は４８百万円で、うち短期借入金１，９５４百万円（前年同期１，０１０百万円）。短期借入金を除く実質の資金は、期首から△６２百万円、前年同期比で△１，０１１百万円である。 １０月に大津市から追加の運営費負担金１，２７２百万円が入金され、一時的に短期借入金は減少するが、１２月賞与（５８０百万円）、３月移行前地方債の償還（５３５百万円）で追加運営費負担金の効果はなくなり、資金繰りは、年度末短期借入残高１，９６７百万円に達する見込みである。 令和元年度資金増減見込み（第２四半期末現在）　（単位：百万円） 中期計画：＋１，３０５　→　△１１１（△１，４１６） ※主な要因 計画　見込　差異 入院収益　７，８１５　→　６，７２６　（△１，０８９） ＜入院収益(Ｈ３０)　７，４９５　→　６，７２６　（△７６９）＞ （うち分娩休止等△３９０） 人件費　６，６４６　→　６，７９６　（＋１５０） 固定資産購入（長期借入分除く）　０　→　９０　（＋９０）	令和元年度第２四半期末での現預金保有状況は、資金収支で計画の想定より６３０百万円減少している。その主な要因は入院収益５３０百万円減少、退職金６８百万円増加したからである。 今後は、１２月賞与、３月の移行前地方債の償還により、年度末短期借入残高１，９６７百万円に達し、短期借入金余力がない状況が見込まれる。資金繰り改善のため、経営改善計画に挙げた収益改善策のうち早期に取り組めるものから実施することで資金繰りの改善に努めていく。	■市は今年度内において短期借入金が計画限度額を超えないよう、運営費負担金を措置したところである。今後は、法人が予測している年度末短期借入残高の見込みのように下振れすることなく、最大限の経営努力を行うこと。

（３）事業年度における四半期ごとのその他の情報のうち職員体制等に関すること

〈職員体制等〉	〈法人の自己分析〉	〈市の確認結果〉
令和元年第２四半期末での職員体制は８１４人で（退職２６人、採用者１２人）、年度当初比△１６人、前年度比で△３２人である。	令和元年６月からの分娩休止に伴う看護師の適正配置に努めた。（令和元年第１四半期末比較　看護師△１１人） 令和元年７月には、医事課業務の強化のための体制整備を図った。（医事課長を外部から人材確保）	■継続的に医師、看護師の適正配置に努めること。 ■前期で指摘した事務局職員の強化に努められた点は評価できる。今後も事務局強化に繋がる優秀な人材の確保に努めること。

（４）その他、法人経営において特筆すべきこと

〈事業実績等〉	〈法人の自己分析〉	〈市の確認結果〉
○理事会 第２四半期で２回開催（第４回：７／２６、第５回：８／３０） 主な議題：消費税率改定に伴う使用料等に関する規程の変更、大津市からの運営費負担金について等 ○監事監査 今年度中に期中監査を行い、業務上のリスク確認を行う予定をしている。 ○その他 外部理事による経営講演会を、９月１０日に各所属の管理職向けに開催し、経営改善策や組織の活性化に向けた取り組みについての提言を受けた。	○理事会 理事会の進め方や開催頻度について見直しを行い、これまで事務局側からの現状報告が中心であった進め方を変更し、事前に資料を配付した上で理事会を討議の場とすることとした。 ○監事監査 年内に期中監査を行い、業務上のリスク確認を行う。 ○その他 外部理事による経営講演会を実施し、激変する医療環境の中において、収入増加のため加算取得に向けたスタッフ補充や適正配置など必要な現状分析や、組織活性化のため職員一人ひとりの経営意識を高めた。	■理事会では、今の経営状況をいかに改善させるかに主眼を置いた議論が建設的に行えるよう、十分な準備をもって臨むこと。 ■外部理事による経営講演会を一過性のものにするのではなく、職員一人一人の意識が変わるように努めること。

＜別紙＞

令和元年度の第２四半期業務実績に関する小項目評価における指標一覧（７-９月期）

令和元年１０月

大津市

【令和元年度小項目業績評価における事業実績（指標の達成実績）一覧】

事業年度の実績関する項目別での分析・確認結果

年度計画に掲げる目標指標に関する目標を達成するための取組

指標No.	大項目	分析・検証する小項目及び目標指標	H28実績	H29実績	H30実績	H30（7-9月）実績	R1目標	R1見込（7-9月）［A］	R1実績（7-9月）［B］	計画増減［B-A］		達成見込み状況［B/A］	達成☆	備考 「※」は、見込みは目標の1/4（小数点以下があるときは切捨て）
	第２　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置													
		１　市民病院としての役割												
		⑴　５疾病に対する医療の提供												
1		がん手術件数	605件	603件	629件	157件	640件	160件	132件	△28件		82.5%	↑	※
2		化学療法件数	1,861件	2,118件	2,769件	460件	1,870件	467件	516件	49件		110.5%	↑☆	※
3		放射線治療件数	99件	110件	101件	28件	115件	28件	28件	0件		100.0%	↑☆	※
4		脳外科手術件数	289件	251件	275件	78件	325件	81件	84件	3件		103.7%	↑☆	※
5		ＰＣＩ実施件数	177件	184件	151件	49件	206件	51件	37件	△14件		72.5%	↑	※
		⑵　４事業に対する医療の確保												
6		救急搬送受入件数	4,176件	4,097件	3,915件	1,022件	4,090件	1,022件	881件	△141件		86.2%	↑	※
7		救急搬送入院患者数	1,524人	1,457件	1,413人	361人	1,444人	361人	303人	△58人		83.9%	↑	※
8		救急ストップ時間	29時間	317時間	436時間	0時間	0時間	0時間	0時間	－		－	↓☆	
9		救急搬送比率	26.7%	25.2%	24.3%	27.4%	27.5%	27.5%	20.7%	△6.8P		75.3%	↑	
10		救急入院患者数	3,114人	2,886人	2,778人	757人	3,050人	762人	588人	△174人		77.1%	↑	※
11		小児科入院患者数	3,693人	3,216人	2,748人	660人	2,645人	661人	665人	4人		100.6%	↑☆	※
12		小児科救急受入件数	2,072件	2,304件	2,048件	587件	2,375件	593件	436件	△157件		73.5%	↑	※
		⑶　感染症への対応												
		⑷　予防医療の提供												
13		人間ドック受診者数	3,215人	3,452人	3,442人	799人	3,246人	811人	978人	167人		120.6%	↑☆	◇前年度の季節変動反映
		２　地域の病院、診療所等との機能分化及び連携強化												
		⑴　地域医療支援病院としての役割												
14		紹介率	56.6%	54.0%	65.2%	55.0%	57.0%	57.0%	68.6%	11.6P		120.4%	↑☆	
15		逆紹介率	83.9%	86.2%	94.4%	76.0%	78.0%	78.0%	101.8%	23.8P		130.5%	↑☆	
16		地域医療機関訪問回数	318回	316回	329回	62回	250回	62回	75回	13回		121.0%	↑☆	※
		⑵　地域での病院機能とその役割				定性								
		⑶　在宅医療・介護との連携強化				定性								
		⑷　関係機関との連携強化				定性								
		３　市民・患者への医療サービス												
		⑴　市民・患者の求める医療サービスの提供				定性								
		⑵　職員の接遇の質の向上				定性								
		４　医療の質の向上												
		⑴　医療の安全の徹底				定性								
		⑵　診療データ分析による医療の質と効率性の標準化				定性								
		⑶　セカンドオピニオンの推進				定性								
		⑷　市民への医療の質に関する情報発信				定性								

	第３　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置												
	１　経営の効率化												
	２　管理体制の強化												
	⑴　経営体制の強化				定性								
	⑵　内部統制の強化				定性								
	⑶　コンプライアンスの徹底				定性								
	３　優れた人材の確保と意識改革												
	⑴　法人職員の確保				定性								
	⑵　職員の意識改革とモチベーションの向上				定性								
	⑶　研修体制の強化				定性								
	第４　財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置												
	１　単年度資金収支ゼロ以上並びに経常収支比率及び医業収支比率１００パーセント以上を達成するために講じる施策												
17	医業収支比率　※1	87.4%	93.6%	99.9%	－	105.0%	－	－	－		－	↑	半期ごと確認指標
18	経常収支比率　※2	91.2%	90.0%	102.7%	－	112.0%	－	－	－		－	↑	半期ごと確認指標
	⑴　収入及び収益の向上策												
19	入院診療単価	55,980 円	57,954 円	59,053 円	58,621 円	58,500 円	58,500 円	58,682 円	182 円		100.3%	↑☆	
20	外来診療単価	13,581 円	13,997 円	15,294 円	14,757 円	12,000 円	12,000 円	15,102 円	3,102 円		125.9%	↑☆	
21	手術件数	4,027 件	3,888 件	3,635 件	913 件	4,450 件	1,112 件	996 件	△116 件		89.6%	↑	※
22	病床稼働率	83.7%	88.4%	87.9%	88.3%	82.0%	82.0%	81.7%	△0.3Ｐ		99.6%	↑	
23	入院患者数	132,305 人	126,868 人	126,084 人	31,943 人	133,590 人	33,397 人	28,989 人	△4,408 人		86.8%	↑	※
24	外来患者数	220,439 人	218,401 人	210,287 人	52,164 人	228,420 人	57,107 人	50,192 人	△6,915 人		87.9%	↑	※
25	平均在院日数	12.3 日	12.6 日	12.6 日	12.4 日	11.2 日	11.2 日	12.7 日	1.5 日		113.4%	↓	
26	ＤＰＣⅡ期間以内患者割合	64.0%	64.5%	58.7%	57.6%	69.0%	69.0%	58.1%	△10.9Ｐ		84.2%	↑	
27	新入院患者数	10,414 人	9,879 人	9,293 人	2,376 人	10,780 人	2,695 人	2,125 人	△570 人		78.8%	↑	※
28	ＩＣＵ稼働率	107.5%	114.6%	114.4%	122.7%	100.0%	100.0%	99.9%	△0.1Ｐ		99.9%	↑	
	⑵　支出及び費用の削減策												
29	人件費比率（職員給与費比率）	61.5%	57.7%	54.7%	－	56.0%	－	－	－		－	↓	半期ごと確認指標
30	材料費比率	21.9%	22.9%	23.0%	－	20.0%	－	－	－		－	↓	半期ごと確認指標
31	後発医薬品指数	90.0%	89.3%	91.6%	－	80.0%	－	－	－		－	↑	半期ごと確認指標
32	委託費比率	11.0%	11.0%	11.7%	－	11.0%	－	－	－		－	↓	半期ごと確認指標
	２　運営費負担金				定性								
	３　計画期間内の収支見通し				定性								
	第５　その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置												
	⑴　大津市民病院付属看護専門学校の在り方について				定性								平成３０年度以降新規学生募集停止
	⑵　介護老人保健施設ケアセンターおおつの在り方について				定性								平成２９年度末事業廃止

指標（数値目標）を置く項目数　２６項目　・・・　うち　年度目標を達成した項目数　１１項目

注１：達成欄の矢印（↑↓）は達成の方向
注２：単位のうち「Ｐ」はポイント